

「名駅」は交通・ビジネス・カルチャーの街

—名古屋駅界隈の風景—

■国鉄名古屋駅舎の変遷

1886(明治19)年5月1日、官設鉄道(国鉄)の名護屋(後に名古屋に改称)駅開業。1937(昭和12)年2月1日、現在地に移転・高架化し、新駅舎(3代目)が開業。駅舎は地上5階(一部6階)地下1階、延床面積7万㎡で、当時「東洋一の駅ビル」と呼ばれていた。この駅舎は1993(平成5)年10月まで使用された。



名古屋駅舎と市電(1972) ※掲載写真は全て筆者撮影

■交通の集中・名古屋の玄関口

1937年の名古屋駅移転後、1938年に関西急行電鉄(現近畿日本鉄道)が、1941年に名古屋鉄道が地下へ乗り入れ、1957年地下鉄1号線(東山線)が開通した。市電の多くの系統は名古屋駅前が始発となり、交通の中心・名古屋の玄関口となった。駅前の道路には通勤客を始め鉄道から市電・市バスへの乗り換えで人があふれていた。



名古屋駅前の広めの安全地帯(1972)

1967(昭和42)年に開業した名鉄バスセンターは日本で初の本格的なバスターミナルであった。1975(昭和50)年市バスのバスターミナルが開業したことで道路わきに林立していた市バス停留所が解消された。



冬の午後、笹島交差点を横断する歩行者(1971)



笹島にて背後は名鉄バスセンターへのスロープ(1970)

■地下街とビル群

名古屋駅界隈は地元では古くから「名駅(メーエキ)」と親しまれていた。1977(昭和52)年、名古屋駅周辺の町名も「名駅」に変更された。名駅地下街サンロードは1957年に開業、本格的地下街としては日本最古。名駅の地下街は一気に整備され、1976年には9つの地下街、延床面積は約83,504㎡に及んだ。ユニモールとエスカには大規模な駐車場が整備された。地下街には飲食店が多く占めていた。



大名古屋ビルヂング(2004)



毎日ビル 窓にImagineの歌詞(2002)

1950年代から70年代にかけて毎日ビル、名鉄ビル、大名古屋ビルヂング、近鉄ビルなどのビル群が建設された。周辺のビルと地下街はほぼ同時期に建設され相互に接続し、地上を歩くことなく各ビルへアクセスできるようになっている。



当時賑わっていた
屋上ビアガーデン(2004)



当時の立ち食い風景
イートイン・ストリートにて(1976)

■駅から文化の街へ

駅前のビルでは映画館の開館が相次ぎ、1961年には中村区に25館の映画館があり、その多くが名駅界隈にあったと考えられる。

昭和30~40年代は名駅界隈が乗り継ぎの地からビジネスの街へ、さらにファッション、映画、買物、飲食、劇場、など文化の街へと発展した時期であった。

(山田 貢)